

令和3年度 大田区立東蒲中学校 自己評価 報告書

令和4年3月1日

<p>○ 本校の概要</p> <p>1 学校規模 (1)生徒数 427名(第1学年131名、第2学年135名、第3学年163名) (2)学級数 13学級(SR教室拠点校)を育成する。 (3)教員数 29名(男性16名、女性13名)する。</p>		<p>2 特色ある教育活動 「他共に大いにし、学ぶ意欲を育てる東蒲中」 (1)豊かな人間性を育てる・小中一貫で生活スタンダードに取り組み、規範意識を育てる。 (2)学ぶ意欲を育てる・・・興味関心を高める指導の工夫をし、分かる授業実践を</p>	
--	--	---	--

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策				今年度 昨年度	今年度 昨年度	学校関係者記入欄	
大項目	目標	取組内容	取組指標	今年度 昨年度	今年度 昨年度	評価 人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子供の力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4 3	4:生徒アンケートにおいて、「先生は、勉強についての質問や疑問に丁寧に回答してくれる」、保護者アンケートにおいて、「授業は教え方が丁寧で、わかりやすい授業が多いようだ」の問いに対して、肯定的評価の割合が80%以上である。 3:生徒アンケートにおいて、「先生は、勉強についての質問や疑問に丁寧に回答してくれる」、保護者アンケートにおいて、「授業は教え方が丁寧で、わかりやすい授業が多いようだ」の問いに対して、肯定的評価の割合が70%以上である。	A 7 B 3 C 3 D	未来社会を創造的に生きる子供の育成において、外国語教育指導員、理数教育、ICTの活用、人権教育、体力の向上、言語活動の充実の推進に向けた取組で、教員の評価はよい結果が出た。ICT活用に関しては、すべての教員が研修を経て機材を使いこなすようになった。しかし、生徒への「タブレットなどICTを活用した授業が多い」で肯定的回答は65%と生徒との思いに差が出た。また道徳の授業を通して人権教育を学年でどのように進めさせるか相談しながら行うことができている。今年度はコロナに関する差別や運動会で失敗した時にどのようにふるまうかなど時期に合った指導ができた。ALTを活用した授業で、外国の方とのコミュニケーション能力の育成を図った。自分の考えを発表する機会は工夫をしながら可能か場面面で実施した。体力面ではマスクを外してできることが限られ、充分に体力の向上に向けた取り組みはできなかった。コロナの状況を踏まえながら、今後もよりコミュニケーションをとりながら話し合い活動を充実させ、問題解決が図れるような授業を実施する必要がある。
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4 4	4:生徒アンケートにおいて、「先生は、勉強についての質問や疑問に丁寧に回答してくれる」、保護者アンケートにおいて、「授業は教え方が丁寧で、わかりやすい授業が多いようだ」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%以上である。		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4 4 4	2:生徒アンケートにおいて、「先生は、勉強についての質問や疑問に丁寧に回答してくれる」、保護者アンケートにおいて、「授業は教え方が丁寧で、わかりやすい授業が多いようだ」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%以上である。		
		体カテストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4 4 新	1:生徒アンケートにおいて、「先生は、勉強についての質問や疑問に丁寧に回答してくれる」、保護者アンケートにおいて、「授業は教え方が丁寧で、わかりやすい授業が多いようだ」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%未満である。		
プラン2 児童・生徒一人一人の学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	児童・生徒一人一人の学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	4 4 3 4	4:生徒アンケートにおいて、「授業にしっかりと取り組んでいる」「家庭で宿題、予習・復習をしっかりとっている」「授業はわかりやすく丁寧である」の問いに対して、肯定的評価の割合が80%以上である。 3:生徒アンケートにおいて、「授業にしっかりと取り組んでいる」「家庭で宿題、予習・復習をしっかりとっている」「授業はわかりやすく丁寧である」の問いに対して、肯定的評価の割合が70%以上である。	A 7 B 1 C 4 D	三者面談時に学習カルテを配付し、学習力向上策を実施した。区学習効果測定や教科評定及び数学チェックシート等を資料として個に応じたアドバイスを行っている。生徒への「授業にしっかりと取り組んでいる」の問いで、肯定的評価の割合が92%であった。「家庭で宿題、予習・復習をしっかりとっている」の問いで、肯定的評価の割合が75%で、家庭学習をさらに推進する必要がある。「授業はわかりやすく丁寧である」の問いに対する肯定的評価は、85%である。ICT機器の活用は各教師が研修を深め、ICT機器を活用した授業実践が行えた。学習効果測定の全校平均正答率は前年度より62.3%となり、今年度の目標である60%を上回った。評価・評定に関しては今年度から新指導要領に則したものに、生徒への「各教科の成績や評価の方法を説明されたか」で肯定的回答は93%となった。今後も信頼される評価・評定になるよう研修を進め、さらに授業改善に向けた研修と家庭学習定着に向けた取組を継続し、基礎・基本的学力のさらなる定着を図る。
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4 4	2:生徒アンケートにおいて、「授業にしっかりと取り組んでいる」「家庭で宿題、予習・復習をしっかりとっている」「授業はわかりやすく丁寧である」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%以上である。		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4 4	1:生徒アンケートにおいて、「授業にしっかりと取り組んでいる」「家庭で宿題、予習・復習をしっかりとっている」「授業はわかりやすく丁寧である」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%未満である。		
		評価基準を明確化や評定資料の工夫などを通して、信頼性と妥当性のある評価・評定に取り組んでいる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4 4	1:生徒アンケートにおいて、「授業にしっかりと取り組んでいる」「家庭で宿題、予習・復習をしっかりとっている」「授業はわかりやすく丁寧である」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%未満である。		
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人一人の正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4 4 4 4	4:保護者アンケートにおいて、「学校の雰囲気は明るく、子どもたちが生き生きと活動している」「子どもは東蒲中の生活が楽しい」と言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が85%以上である。 3:保護者アンケートにおいて、「学校の雰囲気は明るく、子どもたちが生き生きと活動している」「子どもは東蒲中の生活が楽しい」と言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が75%以上である。	A 7 B 4 C 4 D	・人として大切な学びは中学時代において、自分、そして他人それぞれ大切にすることを考えている。これは、正義感、自己肯定感、自己有用感ができ土にもつことで示される。これが評価されている。 ・指定問の信頼は大切です。76%の肯定的な回答が得られたことはまずよかったですね。プランにも関わることですが生徒の言葉を傾聴し、共感できるようなところから諸問題は解決していくのではないのでしょうか。不登校生徒への働きかけも先生だけでなく学友にも考えていただいていたみたいです。もっとも、不登校生徒自身の身体的、精神的な条件もあるかもしれませんがね。 ・口頭、生徒たちの落ち着きを見て、今後適切な対応を期待する。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4 4	2:保護者アンケートにおいて、「学校の雰囲気は明るく、子どもたちが生き生きと活動している」「子どもは東蒲中の生活が楽しい」と言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が65%以上である。		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4 4	1:保護者アンケートにおいて、「学校の雰囲気は明るく、子どもたちが生き生きと活動している」「子どもは東蒲中の生活が楽しい」と言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が65%未満である。		
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対して必ず会議を実施しなかった。	4 4	1:保護者アンケートにおいて、「学校の雰囲気は明るく、子どもたちが生き生きと活動している」「子どもは東蒲中の生活が楽しい」と言っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が65%未満である。		
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4 4	4:生徒アンケートにおいて、「部活動は楽しく充実している」、保護者アンケートにおいて、「学校は部活動の活性化を図り、生徒の健全育成に努めている」の問いに対して、肯定的評価の割合が83%以上である。	A 5 B 1 C 4 D	早寝・早起き・朝ごはんについて給食日より学年だよりなどを活用し定期的な啓発活動ができた。また、給食の残菜調査では残菜が全体重量の10%以下となっており残菜が少ないよい状況が続いている。生徒への「給食は工夫されている」「おいしい」の肯定的回答は86%と高い数値になっている。今年度は運動会を5月に実施でき、種目は制限されたが生徒にとっては運動の大切さを知った行事となった。今後も基本的な生活習慣の定着・促進とともに、補強トレーニングや一校一取組に全教員が関わることを通してさらなる健康・体力向上を図る。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3 4	3:生徒アンケートにおいて、「部活動は楽しく充実している」、保護者アンケートにおいて、「学校は部活動の活性化を図り、生徒の健全育成に努めている」の問いに対して、肯定的評価の割合が73%以上である。		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4 4	2:生徒アンケートにおいて、「部活動は楽しく充実している」、保護者アンケートにおいて、「学校は部活動の活性化を図り、生徒の健全育成に努めている」の問いに対して、肯定的評価の割合が63%以上である。		
		部活動の活性化を図り、生徒の体力向上・健全育成に努める。	4:全教員(全学級)で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4 4	1:生徒アンケートにおいて、「部活動は楽しく充実している」、保護者アンケートにおいて、「学校は部活動の活性化を図り、生徒の健全育成に努めている」の問いに対して、肯定的評価の割合が63%未満である。		
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくり出す。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4 4	4:生徒アンケートにおいて、「教材や教え方を工夫している先生が多い」「学校の施設・設備は十分整っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が80%以上である。	A 4 B 2 C 1 D	「わかりやすく丁寧な授業が多い」と肯定的回答した生徒は、85%となった。今後も生徒の学力向上を重要課題ととらえ、区学習効果測定及び国・都の学力調査の結果を分析し、各教科の年間指導計画・評価評定基準を厳しく見直しとともに、新しい学習指導要領実施に向け主体的、対話的、深い学びを目指したさらなる授業改善に努める。 「タブレットやICTを活用した授業が多い」と肯定的回答をした生徒は64%となった。今後の課題となった。補習教室のべ1585人、土曜補習教室のべ182名の参加があった。今後も個に応じた学習環境が提供できるよう努めていく。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:年度間に1回(年間3回)以上行った。 1:実施しなかった。	3 3	3:生徒アンケートにおいて、「教材や教え方を工夫している先生が多い」「学校の施設・設備は十分整っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が70%以上である。		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4 4 3 4	2:生徒アンケートにおいて、「教材や教え方を工夫している先生が多い」「学校の施設・設備は十分整っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%以上である。		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4 3 4	1:生徒アンケートにおいて、「教材や教え方を工夫している先生が多い」「学校の施設・設備は十分整っている」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%未満である。		
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作り出す。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作り出す。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4 4	4:保護者アンケートにおいて、「学校の様子を詳しく保護者に伝えている」「学校は、地域の力を子どもたちの教育活動に生かしている」の問いに対して、肯定的評価の割合が80%以上である。	A 6 B 1 C 4 D	学校支援地域本部と緊密な協力体制を構築し、今年度も年間とおして土曜日補習2名の学習指導講師を手配や英語・漢字検定のボランティアなど様々な教育活動に援助をいただいた。土曜補習教室へのべ参加生徒数は190名程度である。今年度もボランティア活動が実施できなかった。今後も引き続き地域力を生かした教育環境整備を図るとともに、PTAや地域教育連絡協議会・学校支援地域本部との連携をさらに深めていく。 「学校は教育活動の様子をよく伝えている」保護者に伝えている「学校は、地域の力を子どもたちの教育活動に生かしている」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%以上である。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4 4	3:保護者アンケートにおいて、「学校の様子を詳しく保護者に伝えている」「学校は、地域の力を子どもたちの教育活動に生かしている」の問いに対して、肯定的評価の割合が70%以上である。		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4 4	2:保護者アンケートにおいて、「学校の様子を詳しく保護者に伝えている」「学校は、地域の力を子どもたちの教育活動に生かしている」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%以上である。		
		保護者の相談等にいていねいに対応し、保護者からの理解と信頼を得ている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4 4	1:保護者アンケートにおいて、「学校の様子を詳しく保護者に伝えている」「学校は、地域の力を子どもたちの教育活動に生かしている」の問いに対して、肯定的評価の割合が60%未満である。		